

平成30年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年5月11日

上場会社名 株式会社ツカダ・グローバルホールディング 上場取引所 東  
 コード番号 2418 URL <http://www.tsukada-global.holdings>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 塚田正之  
 問合せ先責任者 (役職名) 財務経理部長 (氏名) 山崎誠広 (TEL) 03-5464-0081  
 四半期報告書提出予定日 平成30年5月15日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年12月期第1四半期の連結業績(平成30年1月1日～平成30年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年12月期第1四半期	12,173	5.7	△583	—	△794	—	△365	—
29年12月期第1四半期	11,513	△0.5	△603	—	△670	—	△526	—

(注) 包括利益 30年12月期第1四半期 △1,214百万円( —%) 29年12月期第1四半期 △767百万円( —%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年12月期第1四半期	△7.66	—
29年12月期第1四半期	△11.03	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年12月期第1四半期	81,238	34,381	40.5
29年12月期	84,447	35,781	40.5

(参考) 自己資本 30年12月期第1四半期 32,928百万円 29年12月期 34,208百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年12月期	—	5.00	—	5.00	10.00
30年12月期	—	—	—	—	—
30年12月期(予想)	—	5.00	—	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年12月期の連結業績予想(平成30年1月1日～平成30年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	28,000	7.0	800	6.2	800	15.6	400	151.0	8.39
通期	61,500	7.4	5,000	17.1	5,050	14.8	3,000	36.2	62.89

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) - 、除外 1社(社名) Best Bridal Korea Inc.

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

30年12月期1Q	48,960,000株	29年12月期	48,960,000株
30年12月期1Q	1,259,834株	29年12月期	1,259,834株
30年12月期1Q	47,700,166株	29年12月期1Q	47,700,166株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報)	9
3. 補足情報	10
(施行及び受注の状況)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による各種経済政策の効果により、個人消費の持ち直しや雇用情勢の改善及び企業収益の改善を背景とした設備投資の増加など回復基調で推移したものの、海外経済の不確実性の存在など、先行きについては引き続き不透明な状況が続いております。

このような環境の中、当社グループはブライダル市場、ホテル市場並びにウェルネス&リラクゼーション(W&R)市場における新たな価値の創造、高品質かつ魅力あふれる店舗づくりと付加価値の高いサービスの提供に取り組み、個性化・多様化するお客様のニーズに的確に対応することで、売上高の拡大と収益性の向上に努めてまいりました。当四半期においては、3月に「アートグレイス ネクスト アシヤ」(兵庫県芦屋市)を開業し、また、2019年開業を予定しております「ストリングスホテル新宿」(仮称)(東京都新宿区)の開業準備を推進するなど今後の収益・事業エリアの拡大を進めてまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、12,173百万円(前年同四半期比5.7%増)となり、利益面につきましては、営業損失583百万円(前年同四半期は営業損失603百万円)、経常損失794百万円(同 経常損失670百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失365百万円(同 親会社株主に帰属する四半期純損失526百万円)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### ① 婚礼事業

当第1四半期連結累計期間においては、主力である国内ゲストハウス及び海外挙式において施行組数が増加したことにより売上高は増加し、利益面につきましては「アートグレイス ネクスト アシヤ」のイニシャルコスト等の影響によりセグメント利益は減少しました。

この結果、当セグメントの売上高は7,093百万円(前年同四半期比8.1%増)、セグメント損失は103百万円(前年同四半期はセグメント損失62百万円)となりました。

#### ② ホテル事業

当第1四半期連結累計期間においては、ホテル婚礼の施行組数が微減となりましたが、宿泊稼働率、宿泊単価が総じて堅調に推移したことにより売上高は増加し、セグメント利益においても全体として稼働率が高い水準で推移したことにより増加しました。

この結果、当セグメントの売上高は4,167百万円(前年同四半期比0.7%増)、セグメント利益は65百万円(同104.0%増)となりました。

#### ③ W&R事業

当第1四半期連結累計期間においては、昨年開業した総合フィットネスクラブ「BEST STYLE FITNESS」及び複合温浴施設「美楽温泉SPA-HERBS」のフィットネス部門における新規会員の取り込みが堅調に推移したことにより売上高は増加しましたが、利益面においてはリフレクソロジーサロン「クイーンズウェイ」3店舗の開業費や季節要因等の影響により損失となりました。

この結果、当セグメントの売上高は912百万円(前年同四半期比12.0%増)、セグメント損失は128百万円(前年同四半期はセグメント損失114百万円)となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### 資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末における資産総額は、前連結会計年度末に比べ3,208百万円減少して、81,238百万円となりました。これは主に、「ストリングスホテル新宿」(仮称)の建設工事に係る有形固定資産のその他(主に建設仮勘定)が1,037百万円及び保有しておりました神宮前事業用地の売却等により現金及び預金が2,686百万円それぞれ増加した一方、当該土地の売却等により土地が6,775百万円減少したことによるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における負債総額は、前連結会計年度末に比べ1,808百万円減少して、46,857百万円となりました。これは主に、設備投資に係る資金調達により長期借入金が増加しましたが、短期借入金の返済により4,980百万円減少したことによるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における純資産総額は、前連結会計年度末に比べ1,399百万円減少して、34,381百万円となりました。これは主に、円高の影響により為替換算調整勘定が529百万円、配当金の支払及び親会社株主に帰属する四半期純損失等の計上により利益剰余金が518百万円それぞれ減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成30年2月14日付け決算短信にて公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更ありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	14,985	17,671
売掛金	1,108	1,071
商品	118	126
原材料及び貯蔵品	557	523
その他	1,672	2,039
貸倒引当金	△38	△24
流動資産合計	18,404	21,407
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	24,745	24,323
土地	20,881	14,106
その他(純額)	2,546	3,583
有形固定資産合計	48,173	42,013
無形固定資産		
のれん	2,004	1,938
その他	231	219
無形固定資産合計	2,236	2,157
投資その他の資産		
投資有価証券	2,675	2,971
敷金及び保証金	8,663	8,333
その他	4,392	4,375
貸倒引当金	△180	△196
投資その他の資産合計	15,550	15,483
固定資産合計	65,960	59,654
繰延資産	82	176
資産合計	84,447	81,238

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	2,461	2,333
短期借入金	8,100	3,120
1年内返済予定の長期借入金	3,633	3,913
1年内償還予定の社債	744	590
1年内償還予定の転換社債型新株予約権付社債	500	500
未払法人税等	1,234	462
前受金	1,625	2,183
その他	4,009	3,544
流動負債合計	22,307	16,647
固定負債		
社債	3,415	3,505
長期借入金	18,848	22,409
退職給付に係る負債	353	288
役員退職慰労引当金	738	754
資産除去債務	2,369	2,369
その他	632	881
固定負債合計	26,358	30,209
負債合計	48,666	46,857
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	472	472
資本剰余金	634	634
利益剰余金	33,816	33,298
自己株式	△892	△892
株主資本合計	34,030	33,511
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△66	△92
繰延ヘッジ損益	—	△206
為替換算調整勘定	250	△279
退職給付に係る調整累計額	△5	△4
その他の包括利益累計額合計	178	△583
非支配株主持分	1,572	1,453
純資産合計	35,781	34,381
負債純資産合計	84,447	81,238

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年3月31日)
売上高	11,513	12,173
売上原価	8,570	9,173
売上総利益	2,943	3,000
販売費及び一般管理費	3,546	3,584
営業損失(△)	△603	△583
営業外収益		
受取利息	7	8
受取配当金	8	2
匿名組合投資利益	74	71
不動産賃貸収入	61	59
為替差益	56	—
その他	33	12
営業外収益合計	242	153
営業外費用		
支払利息	55	52
デリバティブ評価損	202	29
為替差損	—	251
その他	50	30
営業外費用合計	309	364
経常損失(△)	△670	△794
特別利益		
固定資産売却益	0	492
特別利益合計	0	492
特別損失		
固定資産除却損	9	12
店舗閉鎖損失	0	37
その他	—	7
特別損失合計	9	57
税金等調整前四半期純損失(△)	△680	△359
法人税等	△161	△0
四半期純損失(△)	△518	△358
非支配株主に帰属する四半期純利益	7	7
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△526	△365



(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年3月31日)
四半期純損失(△)	△518	△358
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△9	△26
繰延ヘッジ損益	—	△206
為替換算調整勘定	△239	△623
退職給付に係る調整額	0	0
その他の包括利益合計	△248	△855
四半期包括利益	△767	△1,214
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△715	△1,127
非支配株主に係る四半期包括利益	△51	△87

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

前連結会計年度において連結子会社でありましたBest Bridal Korea Inc.は、重要性が乏しくなったため、当第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(簡便な会計処理)

① 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

② 繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予想やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

(特有の会計処理)

税金費用の計算

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、見積実効税率を使用できない場合には、法定実効税率を使用しております。

(追加情報)

一部の国内連結子会社において、従来、退職一時金制度、確定給付企業年金制度及び確定拠出年金制度を設けておりましたが平成30年4月1日付けでこれらの制度を廃止しております。当該廃止に伴い「退職給付制度間の移行等に関する会計処理」(企業会計基準適用指針第1号)及び「退職給付制度間の移行等の会計処理に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第2号)を適用しておりますが、この適用に伴う当第1四半期連結累計期間に与える影響額は軽微であります。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成29年1月1日 至 平成29年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	婚礼事業	ホテル事業	W&R事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	6,561	4,136	815	11,513	—	11,513
セグメント間の 内部売上高又は振替高	288	57	—	345	△345	—
計	6,850	4,193	815	11,859	△345	11,513
セグメント利益又は セグメント損失(△)	△62	32	△114	△143	△459	△603

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△459百万円には、セグメント間取引消去8百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△468百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 平成30年1月1日 至 平成30年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	婚礼事業	ホテル事業	W&R事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	7,093	4,167	912	12,173	—	12,173
セグメント間の 内部売上高又は振替高	286	80	0	366	△366	—
計	7,379	4,247	912	12,540	△366	12,173
セグメント利益又は セグメント損失(△)	△103	65	△128	△166	△417	△583

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△417百万円には、セグメント間取引消去13百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△430百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

### 3. 補足情報

(施行及び受注の状況)

#### (1) 婚礼施行実績

期別	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年3月31日)	前連結会計年度 (自平成29年1月1日 至平成29年12月31日)
セグメントの名称	施行件数 (件)	施行件数 (件)	施行件数 (件)
婚礼事業	2,077	2,422	11,800
ホテル事業	420	363	1,845
合計	2,497	2,785	13,645

#### (2) 婚礼受注状況

期別	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年3月31日)		当第1四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年3月31日)		前連結会計年度 (自平成29年1月1日 至平成29年12月31日)	
	受注件数 (件)	受注残高件数 (件)	受注件数 (件)	受注残高件数 (件)	受注件数 (件)	受注残高件数 (件)
セグメントの名称						
婚礼事業	3,566	7,667	4,031	8,558	12,571	6,949
ホテル事業	507	1,344	495	1,248	1,704	1,116
合計	4,073	9,011	4,526	9,806	14,275	8,065